第五講　縁語〔演習編〕／引き歌／その他の問題傾向

1

縁語〔演習編〕

【予習制】問１〜問４を解いた上で動画を見てください

問１　「呉竹のよの外ならで世のわざのうきふししらぬ陰ぞしづけき」の縁語について、例にならって説明せよ。

（例）「はる」「き」「つま」が、「唐衣」の縁語。

問２　次の和歌に用いられている修辞法として適切なものを、後の中から二つ選べ。

きのふ見し＊すがたの池に袖ぬれてしぼりかねぬといかでしらせん

＊すがたの池…現在の奈良県にある菅田神社近くの池。

ア　枕詞　　イ　掛詞　　ウ　倒置

エ　縁語　　オ　序詞

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問3　次の和歌の縁語を説明せよ。

かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを

注　さしも草…モグサ。ヨモギの葉の裏にある繊毛を精製したもの。お灸に使用される。

問4　後の文章は、次の文章中の傍線部「涙川そことも知らずつらき瀬を行きかへりつつなかれ来にけり」の和歌に用いられた修辞について説明したものである。空欄部ⅰ～ⅲのそれぞれに適する語句を答えよ。

げにいと小さく、あばれたる家なり。見るより悲しくて、うちたたけば、この女は来着きにしより、さらに泣き臥したるほどにて、「誰そ」と問はすれば、この男の声にて、

涙川そことも知らずつらき瀬を行きかへりつつなかれ来にけり

「そこ」は「其処」と「（　ⅰ　）」を掛けた掛詞であり、「なかれ」は「流れ」と「（　ⅱ　）」を掛けた掛詞である。また、「（　ⅰ　）」「瀬」「流れ」は「（　ⅲ　）」の縁語である。

ⅰ＝

ⅱ＝

ⅲ＝

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2

引き歌

和歌の一部を引用して発言すること。

> **【重要】** ふまえられた和歌の**「引用されていない部分」**が一番伝えたいことになっている場合が多い。

問1　次の文章を読んで後の**問**に答えよ。

〈中略〉～思ひわきつつ、「いかにやいかに」とばかり、行末(ゆくすゑ)の心ぼそさはやるかたなきものから…〈以下略〉

問　傍線部「いかにやいかに」は、「世の中をかくいひいひのはてはてはいかにやいかにならむとすらむ」（『拾遺和歌集』雑上・読人しらず）の下の句の一節をふまえた表現である。ここに込められた筆者の気持ちを説明したものとして、最適なものを次の中から選べ。

ア　これから私の身はどうなってしまうのだろう
イ　これからの私の身はどうなってもかまわない
ウ　どうして私の身はこんなことになったのだろう
エ　どうにかして私の身の上を変えたいものだ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問2　「種しあれば、かかる荒磯にも、生ひ出づる松はありけるものを」は、『古今和歌集』の「種しあれば岩にも松は生ひにけり恋ひをし恋ひば逢はざらめやも」という歌をふまえた表現である。男は、これによって、どのようなことを伝えようとしているのか。その説明として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 厳しい自然環境であっても、種がいつかは常緑の松に育つように、初めは淡い恋心であっても、互いに心変わりしなければ、こうして固いきずなで結ばれるのだということ。

② 厳しい自然環境であっても、種さえあればいつかは松が生えるように、ひたすら恋し続ければ、どんなに困難な状況であっても、こうして一緒になれるのだということ。

③ どのような自然環境であっても、種から松が育つには年月がかかるように、恋が芽生えたとしても、心から信頼し合える仲になるまでには、長い時間が必要なのだということ。

④ 厳しい自然環境であっても、種がいつしか大木の松に育つように、辛抱強く待ち続ければ、たとえ時間はかかったとしても、こうして待ち人は来てくれるのだということ。

⑤ どのような自然環境であっても、種がなければ松は生えてこないように、どんなに恋い慕っても、相手が応じてくれなければ、恋が成就することはないのだということ。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　次の文章は、荒木田麗女『五葉』の一節で、妻に先立たれた式部卿（きょう）の宮（親王（みこ））が、后（きさい）の宮に預けた子どもたちのもとを訪れた場面である。これを読んで、後の**問**に答えよ。

（姫君は）このごろにいみじうおよすげて笑みがちにうつくしう見え給ひ、親王のさし寄らせ給へば、たかやかに物語し給へる御顔の匂（にほ）ひなどは、ただ母君のそのままにうつしとり給へるを見給ふには、えたへ給はず、かきくらされ給ふ。宮も「『見るに心は』とつゆけうのみおぼえ侍（はべ）る」とておしのごはせ給ふ。〈以下略〉

問　傍線部は、ある和歌を踏まえた表現である。その和歌はどれだと考えられるか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 女郎花（をみなへし）見るに心は慰までいとどむかしの秋ぞ恋しき
② 女郎花見るに心は慰まで都のつまをなほしのぶかな
③ よそにても見るに心は慰まで立ちこそまされ賀茂の川波
④ しのぶ草見るに心は慰まで忘れがたみに漏る涙かな
⑤ かたみぞと見るに心は慰まで乱れぞまさる妹（いも）が黒髪

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問4　筆者（翁）の十七歳になる娘は四月から病の床にあり、回復の兆しも見えないまま、新年を迎えた。「はや咲きにけり。春のゆくへも知らぬ間に」は、「たれこめて春のゆくへも知らぬ間に待ちし桜もうつろひにけり」（『古今和歌集』春下、藤原因香）という和歌の表現を踏まえている。これを参考にして、娘が言い表したかったことの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　自分が気づかない間に桜が咲いていたのだという感慨と、春霞がたちこめるころが命の限りだと言われていたので、春の移り変わりを最後までは見届けられないだろうという思い。
②　心待ちにしていた桜が咲いていたのだという感慨と、病気のため部屋にこもっているので、春の移り変わりを肌身に感じられないまま、やがて命を終えてしまうだろうという思い。
③　桜が咲いたことにまったく気づかなかったという失望と、その桜が春の移ろいとともにやがては散ってしまう運命にあるのに、それを知らずに咲き誇っていることをあわれむ気持ち。
④　自分が気づかない間に桜が満開になっていたのだという驚きと、今を盛りと咲き誇っている桜もやがては散ってしまうように、若い自分も次第に年老いてしまうだろうという思い。
⑤　自分が気づかない間に早咲きの桜が咲いたのだという驚きと、暗い気持ちで部屋に閉じこもっていたため、心待ちにしていた春の到来にもまったく気づかなかったことを悔やむ気持ち。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3　その他の問題傾向

●意味

① **後半の七・七が重要なものが多い。**（倒置法の場合は注意）

② 主語把握…命令形＝「和歌の受け手」　／　それ以外＝「詠者」が多い

③ 贈答歌の場合は、後半だけではなく、二つの和歌の共通する言葉に注意。

●穴埋めの選択肢の選び方

① 一部分…残されている部分が手がかりとなる。

② 贈答歌の和歌全体を選ぶ…もう一方の和歌と**共通する言葉が多い選択肢が正解の可能性が高い**ので、それを目安にして、もう一方の和歌ときちんと辻褄のあうものを選ぶこと。

問1　次の和歌Ａ・Ｂが贈答歌であることを踏まえて、空欄に適語を補え。

Ａ　清水のさわぐに影は見えねども昔に似たる滝の音かな

Ｂ（　　　　　　）も昔聞きしにかはらずは流れて絶えぬ心とを知れ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問2　次の空欄（a）（b）（c）（d）は、和歌的な修辞法で、意味あるいは音のつながりによって次の言葉を導く語句が入る。その組み合わせとして最も適当なものを、後の①〜⑤のうちから一つ選べ。

たびごろもうらぶれやすめよなど、（a）ねもごろにいへれば、いざ、ひと日ふつかもありなむと思ふほどに、（b）あさからず、（c）ふかきなさけに、なにくれと、（d）めやすう馴（な）れむつび、…

① （a）木曾（きそ）の麻ぎぬ　（b）夏野の草の　（c）諏訪（すは）の海の　（d）引く網の
② （a）引く網の　（b）木曾の麻ぎぬ　（c）夏野の草の　（d）諏訪の海の
③ （a）夏野の草の　（b）諏訪の海の　（c）引く網の　（d）木曾の麻ぎぬ
④ （a）引く網の　（b）諏訪の海の　（c）夏野の草の　（d）木曾の麻ぎぬ
⑤ （a）夏野の草の　（b）木曾の麻ぎぬ　（c）諏訪の海の　（d）引く網の

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　次の文章は、『日光山縁起』の一節である。有宇（ありう）中将は狩猟に熱中するあまり、帝（みかど）の怒りに触れ、都を出た。東山道下（しも）野（つけ）の国二荒山（ふたらさん）を経て陸奥（むつ）国へ行き、朝日の君と結婚、幸福な生活を送り、六年がたった。以下の文章は、それに続くものである。これを読んで、後の**問**に答えよ。

～また（朝日の君が）申させ給ひけるは、「行く末に川あり。妻離（つまさか）川と申せり。この川の水を飲みぬればふたたび妻にあはずと申すなり。かまへて飲み給ふな」と仰せけり。やうやう行き給ふほどに、一日行きて大川あり。かの水を御覧ずるより、飲まんと思ひ給ふこと限りなし。さりながら、人の教へをおぼしめし出でて、渡らせ給ひけるが、命も絶えぬべかりしほどに、力なく飲ませ給ひけり。それより御身いたはりて、川近き野辺に五日ふしなやみ給ひけり。されども息吹き出でさせ給ひけり。

さて馬に向かひて仰せけるは、「わが命ながらふべしともおぼえず。いづちへも心しづかならむ所へとくとく具足せよ」と仰せければ、～〈中略〉～また朝日の君へも御文こまごまとあそばして、かくなむ。

　A<u>ちぎりおきし妻離川の水ゆゑに露の命となりにけるかな</u>

とあそばして、鷹に向かひてのたまひけるは、「馬は都へ行きぬ。汝この文朝日の君に奉れ」とて、賜（た）ばせ給ふ。さるほどに、朝日の君の縹の帯解けたりけるほどに、あやしみて、夜にまぎれあくがれ出で給ひつつ、七日と申すに妻離川に着き給ひぬ。いづくともなく、鷹飛び来りて御文を落とす。中将殿の御文なりければ、やがて御返しあり。

　B<u>結びおきし縹の帯をしるべにて別れし君を尋ねてぞ行く</u>

「われよりさきにとくして奉れ」と仰せければ、鷹、急ぎ飛び帰りけり。

問　傍線部Ａ・Ｂの歌を詠むことにより、中将と朝日の君はそれぞれ何を伝えようとしたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①　中将は、約束を忘れてしまったために、危機に直面していることを伝えようとし、朝日の君は、縹の帯が解けてしまったことに不吉な兆しを感じて、別れたあなたの無事をどうしても確かめたいという決意を伝えようとした。

②　中将は、約束に忠実に従い、なんとか命をつないでいるうちにどうか助けに来てほしいということを伝えようとし、朝日の君は、固い約束の証（あかし）である縹の帯を目印にして、すぐにあなたを助けにいくという決意を伝えようとした。

③　中将は、約束を守りきれなかったために、私の命は今にも消えてしまいそうだということを伝えようとし、朝日の君は、固い絆（きずな）の証として結んだ縹の帯を手引きとして、別れたあなたを探し出すのだという決意を伝えようとした。

④　中将は、約束に背いてしまったせいで罰をうけ、殺されてしまうかもしれないということを伝えようとし、朝日の君は、不用意に縹の帯を解いてしまったことに動揺し、必ずあなたを救い出すのだという決意を伝えようとした。

⑤　中将は、約束を思い出したおかげで、辛うじて雨露をしのいで生き延びているということを伝えようとし、朝日の君は、固い絆の証として結んだ縹の帯を頼りに、別れたあなたを見つけ出すのだという決意を伝えようとした。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問4　次の文章は『松浦宮（まつらのみや）物語』の一節である。大将と明日香（あすか）の皇女（みこ）との子である弁の少将（弁の君）は、神奈備（かんなび）の皇女に思いを寄せていた。二人は歌の贈答などをすることもあったが、神奈備の皇女は帝のもとへ入内（じゅだい）することになり、弁の少将は遣唐副使に任命され渡唐することになった。以下の文章は、それに続くものである。これを読んで後の**問**に答えよ。

～〈中略〉～神奈備の皇女、

a　もろこしの千重（ちへ）の波間にたぐへやる心もともにたちかへりみよ

今はと参りたまひしのち、ひと言葉の御なさけもなかりつるを心憂しと思ふに、なほ折過ぐさずのたまへるを見るに、血の涙をながせど、使ひはまぎれうせにければ、ただとどまる人につけて、(注1)女王の君のもとに、

b　(注2)息の緒に君が心したぐひなば千重の波わけ(注3)身をも投ぐ(注4)がに

1　女王の君――神奈備の皇女付きの女房。
2　息の緒――命。
3　身をも投ぐ――「身を」に「水脈（みを）」を、「投ぐ」に「凪（な）ぐ」を掛ける。
4　がに――ここではある事柄の実現を期待する意。

問　a・b二首の贈答歌には、それぞれ詠み手のどのような心情がこめられているか。最も適当な組合せを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①

a　入内した今となってはあなたのお気持ちに応（こた）えることはできませんが、大海原のかなたから無事のご帰国を願っています。

b　私に対するあなたのお心がもはや変わってしまったのであるならば、私は大海原に身を投げて、いっそ命を絶ってしまいたいと思っています。

②

a　入内の定まった身ではありますが、私もすぐにあなたのあとを追って、大海原を分けて唐に渡って行きたいと思っています。

b　いつまでも私のそばにいてくださるというあなたのお気持ちが本当のものであるならば、私も大海原に身を投げて死ぬということなど考えもしないでしょう。

③

a　たとえ大海原を隔てても、私の心はいつもあなたのおそばに寄り添って、無事にご帰国になるまでお守り申し上げることでしょう。

b　あなたの心が本当に私の身に寄り添ってついて来てくださるならば、私は大海原を分けてきっと無事に帰ってくることができるでしょう。

④

a　たとえ入内の定まった身ではあっても、私の命のある限り大海原のかなたからあなたのご帰国をいつまでもお待ち申し上げています。

b　あなたのお気持ちがいつまでも変わらないものであるならば、私は大海原を分けて安心して唐に渡ることができるでしょう。

⑤

a　たとえ大海原を隔てても、あなたの心が私の身にいつも寄り添ってくださるならば、私は少しも寂しいことなどありません。

b　あなたの心が私の心と同じように愛情に満ちたものであるならば、私は大海原に身を投げてでも必ず帰ってくるでしょう。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

①　次の文章は、「なにかげに人の折りけるもみぢ葉を心移して思ひそめけむ」の歌についての説明文である。説明文中の空欄［a］・［b］には、それぞれどのような語句を入れたらよいか。最も適切な組み合わせを、次のア〜エの中から一つ選べ。

「そめ」は「思ひ初め」の「初め」と「染め」との［a］、「折り」「染め」は「もみぢ」の［b］である。

ア　a　掛詞　　b　縁語
イ　a　枕詞　　b　序詞
ウ　a　掛詞　　b　枕詞
エ　a　序詞　　b　縁語

②　「富士の嶺は恋を駿河の山なれば思ひありとぞ煙立つらん」の歌に使われている技法を、次のうちから二つ選べ。

ア　枕詞　　イ　懸詞　　ウ　体言止め
エ　縁語　　オ　対句

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　模範解答

1

問1　「よ」「(うき) ふし」が、「(呉) 竹」の縁語。

問2　イ・エ

問3　「燃ゆる」と「ひ (火)」が「さしも草」の縁語。

問4　i 底　ii 泣かれ　iii (涙) 川

2

問1　ア

問2　②

問3　④

問4　②

3

問1　滝の音

問2　⑤

問3　③

問4　③

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〈解説〉

① aは、一つの音「そめ」に二つの意味をもたせていることから「掛詞」とわかる。bは、「折り」「染め」が「もみぢ」（＝体言）に関連する語と考えられるため「縁語」とわかる。よって、正解はア。

② 第二講で学習した「頻出例」の掛詞「（おも）ひ（（思）ひ・火）」があり、「煙」が「火」の縁語。よって、正解はイとエ。

〈解答〉

①　ア　　②　イ・エ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。